

## 授業概要

この授業は初めて中国語を勉強するものを対象とし、中国語の発音・声調から基礎文型と初歩的な会話を学ぶ。授業は前半6週間において発音・声調を集中的に習い、後半は名詞文、形容詞文、動詞文を中心に基礎文法を修得しつつ、初歩的な会話練習を繰り返すことによって、発音・声調と基礎文型の習熟度を高めていく。

## 授業計画

第1回	声調と母音：漢語の四声、単母音
第2回	複合母音：二重母音、三重母音、母音の変化
第3回	子音：有気子音と無気子音、巻舌音その他の子音
第4回	鼻母音：前鼻母音n、後鼻母音ng
第5回	声調変化、音節構造、発音及び表記規則
第6回	人称代名詞、判断文、疑問語気助詞
第7回	判断文の復習と会話練習
第8回	指示代名詞、動詞文、疑問詞
第9回	動詞文の復習と会話練習
第10回	場所代名詞、存在文、方位詞
第11回	存在文の復習と会話練習
第12回	形容詞文、助詞「的」、反復疑問文
第13回	形容詞文の復習と会話練習
第14回	数量詞、数量詞文、数量疑問詞
第15回	数量詞文の復習と会話練習
第16回	総まとめ及びテスト

## 到達目標

中国語の母音、子音、音節、声調を正しく発音し、初級の基礎文法に基づく会話力を身につけるよう目指す。

## 履修上の注意

語学の学習は連続と練習が大切である。中国語Ⅰは履修者に必ず毎回出席して声を出して練習することに励み、その結果を楽しむことを求める。

## 予習復習

中国語Ⅰの履修は予習と復習を必要とする。

## 評価方法

出席への参加姿勢（30%）と授業中の口頭練習（30%）と期末試験（40%）によって総合的に評価する。

## テキスト

張志昂等『基礎中国語文』（三恵社）

## 授業概要

本講義では、発音のしかたから始め、ピンインを見ながら声を出す練習をすると同時に単語や簡体字に慣れるようにする。次に、語順に重点をおいた基本の文型を覚えながら表現を学ぶ。聞く、書く、読む、話す練習を繰り返すことで中国語の基礎力を身につける。毎回「ワンフレーズ中国語」で簡単な挨拶等の基本表現を紹介することで最終的に簡単な会話を身につけられるように指導する。

## 授業計画

第1回	第1課 発音(1) 挨拶言葉、声調と単母音
第2回	第2課 発音(2) 挨拶言葉、声調と単母音復習、ドリル、複合母音
第3回	第3課 発音(3) 挨拶言葉、複合母音復習、ドリル、子音
第4回	第4課 発音(4) 挨拶言葉、鼻音を伴う母音復習、ドリル、発音のルール
第5回	第5課 (出迎える)、単語、ポイント：①姓の言い方 ②名前の言い方 ③人称代名詞
第6回	第5課 (出迎える)ドリル、復習
第7回	第6課 (歓迎パーティ)、単語、ポイント：①動詞“是” ②助詞“的”
第8回	第6課 (歓迎パーティ)、ドリル、復習
第9回	第7課 (タクシーに乗る)、単語、ポイント：①動詞文の基本語順 ②連動文
第10回	第7課 (タクシーに乗る)、ドリル、復習
第11回	第8課 (宿泊する)、単語、ポイント：①助動詞“想” ②動詞“有”
第12回	第8課 (宿泊する)、ドリル、復習
第13回	第9課 (道をたずねる)、単語、ポイント：①動詞“在” ②前置詞“从”“往”
第14回	第9課 (道をたずねる)、ドリル、復習
第15回	総まとめ
第16回	定期試験

## 到達目標

はじめて中国語に触れる学生向けにはじめからじっくり分かりやすく講義し、基礎となる発音のしくみから簡単な会話の表現まで確実に身につけることを目標としている。

## 履修上の注意

自ら積極的な姿勢で講義に臨んでほしい。学生の理解度や関心度に合わせ、授業計画を一部変更する場合がある。

## 予習復習

テキストのCDを繰り返し聞きながら発音練習と単語を書く練習をすること。

## 評価方法

授業態度 15%、課題 15%、期末試験 70%により総合評価する。

## テキスト

- ・教科書名：『しゃべっていいとも中国語』
- ・著者名：陳淑梅・劉光赤
- ・出版社名：朝日出版社 2014年